

マレーシア編

## クアラルンプールで超高層ビル建設ラッシュ



ツインタワーと建設中の Exchange106 (右)

首都クアラルンプールで、超高層ビルが次々と建てられています。

1997年にできた452メートルの高さを誇る、マレーシアの象徴ともなっているツインタワーが建設されて以降、超高層ビルはありませんでした。しかし、ここ数年で超高層ビルが乱立するようになり、景観が大きく変貌。さらに多くの超高層ビルが建てられているのです。

繁華街ブキビンタン近くに作られているのは「Signature Tower」。プドウ刑務所跡地の約20ヘクタールの土地にできる「ブキビンタン・シティーセンター」の一角にでき、80階建て。高さは公表されていませんが、ツインタワーの最上階は88階なので、ほぼ同じ高さになるのでしょうか。2025年までに完成し、高級ホテルや住居が入る予定です。

次に、中心部近くの新たに開発されている国際金融センターとなる Exchange106 は、高さ451.9メートルの106階建て。完成すると、最上階の12階部分の外装は夜になるとイルミネーションになるそうです。2018年の政権交代で一時期建設中止との憶測もでしたが、2019年に完成となります。

さらに、これを上回るビルをチャイナタウンにも建設中。高さ644メートルの118階建ての「Merdeka PNB118」と名付けられ、2021年に完成予定。オフィスビルですが、高級ホテルやレジデンスも作られます。これが完成するとマレーシアや東南アジアの高さだけでなく、世界第3位の超高層ビルとなるのです。

クアラルンプールでは、200メートル以上のビル20本以上が現在、建設承認が下りています。中には最上階に大型観覧車を設置するビルも。また、建設計画中の超高層ビルも30本以上あり、そのなかの目玉は145階建ての高さ700メートルのKLCC East Gate。政府が財政危機に陥っているなか、本当に建設するかどうかはわかりませんが、完成めどは2035年です。

まだまだ建設は続き、数年後の景観は一変することになるでしょう。